

1 学年の実践

1. 単元名 「いきもの なかよし」

2. 指導観

○単元について

本単元は、学習指導要領の内容（7）「動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは、生命を持っていることや成長していることに気付き、生き物への親しみを持ち、大切にすることができるようにする。」と内容（8）「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々と関わることの楽しさがわかり、進んで交流することができるようにする。」を受けて設定したものである。児童にとって生きものは、身近で、興味・関心を持ちやすい対象ではあるが、ともすると生きものを見つけ虫かご等にたくさん集めることで満足してしまい、生命の大切さ等に気付かずに通り過ぎてしまうことが多い。そのため、生きものと触れ合ったり世話をしたりする活動や体験は、生命を大切にすることについて実感を伴って学ぶことにつながり、大変意義深いと考える。

ここでは、身近な生きものを探したり、飼ったりして「どうしたら生きものが喜ぶだろう。」と考えながら、生きものと継続して関わることで、生きものには、自分たちと同じように生命があり、成長して変化することに気付くことをねらいとしている。さらに、自分の生き物への思いや、自分の頑張りを友達に伝えることができる姿を目指す。また、友達の思いを聞いて、自分の思いと比較して相違点、共通点などをとらえながらそれぞれの良さを認め合うことができるようにしたい。

○指導にあたって

大蔵の地域の多様な魅力やよさを味わい、多様な見方や考え方を交流し、地域に対する愛情と誇りを深めるために、学習過程で次のような手立てを講じる。

多面的な視点での評価（いろいろな人から、いろいろな場面で、自己評価）と一人一人の学習状況に応じた支援【手立て3】と対象と多様にかかわる体験の重視と様々な感覚で感じる体験活動の設定【手立て1】

生き物に興味・関心を示す児童は多いが、中には、恐怖心を抱いていたり、苦手意識があったりする児童もいる。だから、一律に評価規準を設けて評価するのではなく、その児童なりに関わりを深めることができたか、より親しみを持つことができたかという視点で見取っていく。児童の実態を把握し、生き物が苦手な児童にも自信がつくように、一つ一つの発見に共感し小さな歩みでも認めるような個に応じた支援をしていきたい。また、対象と十分にかかわることができるように、学校裏の勝田神社を活動場所とし、時間の確保に心がける。

気付きの質を高める学習活動の場の重視と学年・ねらいにあった話し合いの仕方と場や相手を明確にした発表の仕方と場などの話し合い、発表の場の設定の工夫【手立て2】

生きものと触れ合う場面や生きもののかたちを紹介する場面では、1年生（友達）との関わりを位置付ける。それぞれが自分の生き物を飼いながら、自然に自分と友達の生きものを比べ、えさやすみかや動きや体の特徴等の共通点や相違点に気付いたり、お世話の仕方や触り方等でお互いにアドバ

イスをし合ったり、自分の生きものを持ち寄って一緒に遊んだりすると思われる。それらの中で生まれた生きものに対する思いや気付きを「じぶんのいきものことをともだちにおしえよう」の活動で、1年生（友達）と教え合う。発表の準備をする場面では、2年生のオタマジャクシの紹介方法を想起させ、自分の思いが伝わる方法を選ぶ。発表の時は、「わたしのいきものじまん」「おせわなどがんばったこと」「きづいたこと」の3つの視点にそって紹介するように支援する。聞くときは、自分と友達の生きものの共通点や相違点に気付かせたり、かわいさや面白さを共感し合ったりすることで、生きものに対する気付きを深めたり、生きものに対する愛着や親しみの気持ちを持つことができるようにしたい。

3. 単元目標

生活への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生き物やそれらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、親しんだり、大切にしたりしようとする。 ○ 自分の生き物に心を寄せながら、進んで世話をしようとする。
活動や体験についての 思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生き物の育つ場所について考えながら探したり、えさやすみかを工夫して飼育したりすることができる。 ○ 思いや願いをもって生き物を飼ったり、世話をしたりしたことを、自分なりの方法を考え、絵や文や動作などで素直に表現し、伝えることができる。
身近な環境や 自分についての気付き	<ul style="list-style-type: none"> ○ 動きやえさなど生き物の特徴や生き物の育つ場所に気付く。 ○ 生き物は、生命をもっていることや、成長や変化していることに気付く。 ○ 飼育や発表を通して、自分自身の生き方への親しみが増していることや、思いを表現し伝えることができる自分や友達の良さに気付く。

4. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生き物に関心を持ち、意欲的に探している。 ○ 自分の生き物に思いや願いを持って世話をしている。
思考・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 虫など生き物の生息場所を考えながら探している。 ○ 自分の生き物に合ったすみかやえさを考え、世話をしている。
気付き	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生き物をつかまえた場所の特徴に気付く。 ○ 生き物の動きや形、えさなど生き物の特徴、生きものは、命を持っていて成長変化していることに気付く。 ○ 生き物と関わりあって生活する楽しさや、自分の頑張りや成長に気付く。

5. 学習指導計画（総時数10時間）

	主な学習活動	教師の指導・支援	評価の観点・方法
出 会 う	1 生き物みつけをしよう。③ (1) 夏休みや今までに出会った生き物	○ 生き物と関わった経験を出させることにより、生き物を見つけてつかまえてみたいという思いを喚起する。	【関】 生き物に関心を持ち、自分の経験を進んで話したり、生き物を意欲的に見つけたりしようとしてい

<p>ふれあう</p>	<p>を紹介し、校庭で虫みつけをする。</p> <p>(2) 見つけた生き物を紹介し、虫のいそうな場所について話し合う。</p> <p>(3) 虫のいそうな場所へいきもう一度虫みつけをする。</p> <p>2、いきものとなかよしになろう。③</p> <p>(1) 自分が仲良くなりたい虫を決め、継続して世話をする。</p> <p>3、仲良くなった生き物のことを知らせよう。④</p> <p>(1) 発表会の準備をする。</p> <p>(2) 発表会をする。 (本時)</p>	<p>○生き物をつかまえるために必要な道具を自分たちで考えさせ、準備させる。</p> <p>○どんなところを好んで生息しているかに目を向けさせ、もっと探したいという意欲をもたせる。</p> <p>○どんな生き物を何匹くらい飼えるかを考えさせながら、育てたい生き物を決めるようにする。</p> <p>○えさやすみかについての発言を取り上げながら、自分の生き物が喜ぶ環境を整えさせるようにする。</p> <p>○2年生のオタマジャクシ発表会の時のことを想起させ、絵や動作、ペープサートなど自分の思いにあった発表の仕方を選ぶようにする。</p> <p>○発表の仕方、聞き方の視点をおさえ、伝え合う練習をさせる。</p> <p>○友達の発表を自分と比べながら</p>	<p>る。 (行動観察、発言・カード)</p> <p>【思】生き物の生息場所を考えながら探している。 (行動観察、発言・カード)</p> <p>【気】生き物の生息している場所に気付いている。 (行動観察、発言・カード)</p> <p>【関】思いや願いをもって生き物の世話をしている。 (行動観察、発言・カード)</p> <p>【思】生き物の立場に立った世話の仕方を工夫するとともに、気付いたことや感じたことなど自分なりに表現している。 (行動観察、発言・カード)</p> <p>【気】生き物の動きや形、えさなど生き物の特徴に気付くとともに、生命を持っていて成長、変化していることに気付いている。 (行動観察、発言・カード)</p> <p>【関】自分の生き物のことや自分ができるようになったことを、友達に喜んで伝えようとしている。 (行動観察、発言・カード)</p> <p>【思】自分の思いが伝わるような発表の仕方を選んでいく。 (行動観察、発言)</p> <p>【気】思いを表現し伝えること</p>
-------------	---	---	---

	<p>【3】生き物のお世話を振り返り、これからの見通しをもつ。</p>	<p>聞くようにさせる。</p>	<p>ができる自分や友達の良さに気付いている。 (行動観察、発言・カード)</p> <p>【気】生き物と関わりあって生命の大切さ、自分の頑張りや成長に気付いている。 (行動観察、発言・カード)</p>
--	-------------------------------------	------------------	--

6. 本時の学習

平成24年10月17日(水) 於 生活科室

(1) 主眼

自分の生き物のことや飼育活動で気付いたことなどを友達に伝える活動を通して、思いや願いを持って生きものを飼ったり、世話をしたりできるようになった自分や友達のよさに気付くことができるようにする。

(2) 本時の視点

児童は、前時までに生き物と仲良くなるために取り組んできたことや気付いたことなど、みんなに教えたことを絵や実演など伝え方を考え準備してきた。(手立て1:対象と多様にかかわる体験の重視) 本時では、自分の思いを伝えたり、友達の発表を聞くときは、質問したりして、自分と友達の生きものとの関わりの良さやがんばりに気付くことをねらいとしている。

発表する側の児童には、生き物の動きや形、食性、生息場所、お世話の仕方などに対する気付きに視点をあて価値づけなどの支援をしていく。(手立て2:気付きの質を高める学習活動の場の重視) また、聞く側の児童には、友達のお世話の仕方や気付きなど自分と比較しながら相違点や共通点に気付いているかに視点をあて価値づけなどの支援をしていく。(手立て2:学年・ねらいにあった話し合い、発表の場の設定の工夫)

(3) 準備

発表カード、ペープサート、かみしばい、自分の生き物など

(4) 展開

主な学習活動と予想される児童の反応	教師の支援と評価
<p>1、本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○発表者は、友達に自分の生き物の動きや形、食性、生息場所などで気付いたことや、世話をしているがんばったことなどを発表することを確認する。</p> <p>○聞き手は、よくわかったところやわからなかったところ、友達の頑張りや気付きなど自分と比較しながら聞くことを確認する。</p>
<p>めあて ○○くんのことをみんなにおしえよう。</p>	

<p>2、自分が仲良くなった生き物のことを、発表したり聞いたりする。</p> <p>○グループ（生活班）に分かれて、順番に発表する。</p> <p>ぼくのキリギリスの○○くんは、たまねぎとかつおぶしがだいすきです。よくたべます。</p> <p>わたしのカエルの○○ちゃんは、やさしくなぜるとじっとしているよ。</p> <p>ぼくのバツタの○○くんは、とぶのがすごいです。</p> <p>3、発表会の中で気付いたことを発表する。</p> <p>4、本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>○自分の言葉でうまく伝えられなくて困っている児童には、教師との1対1のインタビュー形式で伝えられるように支援する。</p> <p>○発表の後は、質問タイムを設定し、意見を交流させるようにする。</p> <p>どうして、好きな食べ物が、わかったの？</p> <p>どんなふう？やってみて。気持ちよかったんだね。</p> <p>△△さんの飛び方は、本物のバツタに似ているね。よく見たんだね。</p> <p>○自分や友達の良さやがんばりを言えた児童を取り上げ、お互いの良さやがんばりを認め合うことができるようにする。</p> <p>【気】 思いや願いを持って生きものを飼ったり、世話をしたりできるようになった自分や友達のよさに気付いている。（行動観察、発言・カード）</p> <p>次時は、これまでの自分のお世話について振り返ることを確認する。</p>
--	---

7. 研究の実際と考察

(1) 主題に迫るための具体的な手立てについての研究の実際と考察

〔手立て1〕

- ・ 「出会う」段階での対象と多様にかかわる体験の重視
- ・ 「ふれあう・さぐる」段階での様々な感覚で感じる体験活動の設定

〔手立て2〕

- ・ 「伝え合う」段階での気付きの質を高める学習活動の重視
- ・ 「伝え合う」段階での自分の思いや考えを相手に伝えるための表現の仕方や発表の場の設定

〔手立て3〕

- ・ 「ふれあう・さぐる」段階での児童の思考や思いを見取りと、児童の学習状況に応じた適切な助言・支援
- ・ 「ふれあう」「伝え合う」段階での振り返りカードの工夫

(2) 研究の実際と考察

〔手立て1〕

- ・ 対象と多様にかかわる体験ができるように、「勝田神社」での活動を繰り返し行った。勝田神社は、教室からも見えて裏の門から出るとすぐ行ける。また、多くの種類の生き物が生息していることから、最適な場所であった。
- ・ 一人に一つずつ虫かごを準備し、様々な感覚で感じる体験活動ができるようにしたことで、より深く自分の生き物と触れ合うようにした。その結果、毎日虫かごを持って帰る子どもや休み時間にも勝田神社に出かけてお世話をしたり、新しい生き物に出会ったり、虫かごの中を勝田神社の森にしたりするなど、生き物と関わる楽しさがわかり、進んで関わろうとする姿が見られるようになった。

・ 【出会い・さぐる場面】



見て、見て。ぼくの、バッタをみつけたよ。草の中を足でけいたら出てきたよ。つれてかえっていい？

だいじょうぶ。やさしくもったらいいよ。



こわいよ。つかまえて。

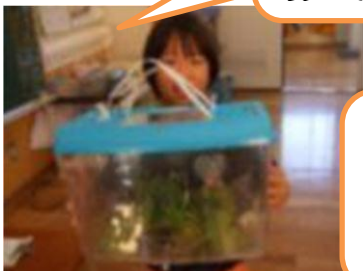
なにをみつけたと？
どこにおったと？



はっぱの下におったよ。

すぐ逃げるけ、上から手をかぶせてとるといいよ。

持って帰りやすいようにひもをつけてもらったよ。
虫かごの中には、家の近くの草を入れてみたよ。草をいれたら、食べていたよ。ウンチもいっぱいしたよ。



おはよう。さみしかった？
今日も元気かな？きのういれたえさは、たべたかな？



〔手立て2〕

- ・ 気づきの質を高めるために伝え合い交流する学習活動の場として、まずみんなの前で数名の子どもが一人ずつ発表をした。教師が、インタビュー形式で聞き取る形での発表をし、「自分の生き物のすごいところ（じまん）や自分自身ががんばったことやできるようになったことを友達に教えよう。」と呼びかけて場の設定をした。そして、少人数グループ（生活班）での発表の場を設定した。
- ・ 発表の仕方については、1学期に2年生が1年生に見せてくれた「オタマジャクシ発表会」の時のことを想起させた。発表方法の選択肢は広がった。しかし、発表したいことが、発表の仕方と合っていなかったため、個別に声をかけた。

（発表の準備をする子どもたち）



ぼくのバッタちゃんは、ジャンプがすごいのでペープサートでみせよう。



わたしは、カエルのカエちゃんにしてあげたことを紙しばいを作ってみんなに教えよう。



バッタのピョンとチビとデビは、なかよしだからお面を作ってみんなにお話ししよう。

- ・ 発表する児童が、生き物の動きや形、食べもの、生息場所などに対する気づきについて発表している場合や、話を聞いている児童が、友達のお世話の仕方や気づきなど自分と比較し相違点や共通点に気付いている場合は、教師が価値づけをした。そうすることで、これまでの自分の生きものとの関わりについて観点をしぼって表現したり、ねらいに沿った聞き方をしたりできた。

また、お世話が上手になった自分や、自分の生きものとの関わりを深めることができた自分の成長に気付くなど気づきの質を高めることができた。

（少人数グループでの発表をする子どもたち）

ぼくは、バッタをさわれなかったけど、さわられるようになった。うれしかった。



〇〇さんのバッタは、ギザギザのはっぱがすきなんだね。いろいろやってみたのがすごいね。

わたしも同じです。バッタは、かわいいけどまだ、さわれません。でも大好きです。

みんな、発表がじょうずでした。



〇〇さんは、虫かごに「神社の森」を作っていたのがすごいと思いました。

わたしもやってみよう。



〔手立て3〕

- ・ 振り返りカードには、吹き出しを作り生き物の立場に立って書けるように工夫した。吹き出しに自分の言葉を入れる子どももいたが、生き物になったつもりで言葉を書くことができた。関わりの密度が深まる様子や気付きや伝えたいことなどが、振り返りカードによって個別の見取りができた。
- ・ 活動の様子をふりかえる時の支援として、写真を提示したり、教師や友達などからアドバイスをもらったりする時間を作った。より質の高い気付きを自覚するため効果的であった。